

木くぼり

樹木の不思議 34

【孤島にはびこる帰化樹木】

小笠原諸島
母島



トウダイグサ科アカギ

帰化樹木とは耳なれない言葉ですが、自然の本来の分布域から人為を介して他の未分布域へ移動していき、そこで自然繁殖するようになった樹木といえます。東京の南1千キロの太平洋に浮かぶ小笠原諸島母島では、明治時代に用材や薪炭用として移入されたアカギという樹木が天然林に侵入して繁殖し、固有種を含む母島在来の植物を駆逐しつつあります。アカギは、ブドウに似た果実をつけ、それを食べた鳥によって種子が散布されます。種子は発芽率がよく、多数の芽生えが発生します。稚樹は、台風などによってできた林冠のギャップ（穴）や落葉樹の樹冠下などで成長し、大木になります。

アカギは、熱帯アジアから台湾、沖縄にかけて広く分布するトウダイグサ科の有用樹種で、天然分布域では数が少なく、目立つ木ではありません。どうして、本来の分布域でない母島で増殖したのでしょうか。

日本本土では、森林への外来植物の侵入はほとんどありません。帰化植物といえば、耕地、河岸、造成裸地などで繁茂するセイタカアワダチソウ、オオレチノギクなど草本植物を指します。日本本土の森林に外来生物の侵入がほとんどないのは、環境に適応して競争力のある多様な在来植物が存在していて、外来植物の侵入する余地がないためと考えられます。一方、海洋島の母島の森林では、植物の種類が少なく、植物間の競争が激しくないため、森林生態系内に未利用の光や水分などの資源が残されているので、アカギのような資源の利用効率が高く競争力のある外来樹木が在来種をさしおいて増殖すると考えられます。

国際交流が盛んな現代、日本本土でも、将来、競争力の強い外来樹木が野生科することがあるかもしれません。

参考資料：森の木の100不思議 ・ 写真：インターネット生物図鑑 他



No.
68

発行
' 08-8月

株式会社 ナガイ内

住まい教室 金谷教室



お知らせ



8月31日(日)【親業】講演会開催します。

会場：㈱ナガイ 2F 会議室 13:00~16:00(予定)
定員 15名

私共、ホームスタディグループ(HSG)は、HSGの目的である『幸福家庭(楽しい家庭)の永続する住宅環境の普及』の方法として、NPO(特定非営利活動法人)【幸せな家庭環境をつくる会】が内閣総理大臣より認証され、各地に支部を設定し活動しています。

今回は、NPOの活動として「子どもの健全育成を図る活動」をテーマに講演会を企画しました。

子どもの心 機微感じて!

心を開く聞き方
対立解決を伝授

「楽しみながら子育てをやっていませんか？」

この問いに、うなずく人、首をかしげる人、首を横にふる人それぞれかと思えます。【親業】は、アメリカで考え出された概念。現在の日本の子ども達の様相は、60年代、70年代のアメリカの若者たちとよく似ています。コミュニケーションがうまくとれない、そもそも会話が成り立たないという状態も珍しくありません。親子関係の中で子どもに要求するだけでなく、親の役割について再認識するのが狙いで、日本にも導入されました。

来る8月31日(日)栃木県在住の親業シニアインストラクター大屋弘子さんを当社にお招きし、講演会を開催致します。

大屋さんの考える親子の心のかけ橋づくりの三本柱は「聞くこと」「語ること」「話し合うこと」だといいます。親は常に子どもに対して聞き上手でなくてはならない。一方でだまって聞いているだけでもいけない。率直に自分の気持ちを語ることも必要なのだそうです。……実践するには、どうすればいいの??

講演会では、相手の心を開く聞き方、自分の気持ちが素直に伝わる話し方、対立が起きたときの解決法など、子どもの心を知るための聞き方のコツを指導していただきます。親と子の役割を演じそれぞれの立場を理解する、といった実技なども取り入れ、わかりやすく学んで頂けると思います。

子育て中の方だけでなく、コミュニケーション能力を必要とするすべての人に有効なお話です。ぜひ皆さんお誘いあわせご参加ください。

お申し込みは ... ㈱ナガイ 0547-45-3501 ほった 堀田まで